

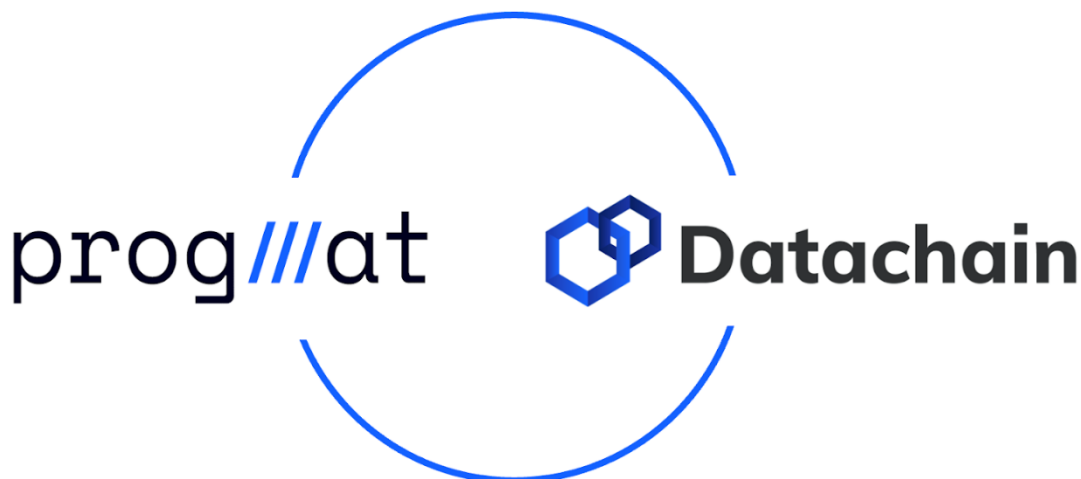
2024年5月31日

Progm at, Inc.
株式会社 Datachain

ステーブルコイン事業協業による、標準機能のコントラクト共同開発完了および テストネット環境における複数ブロックチェーン間の移転取引成功について

Progm at, Inc.（代表取締役：齊藤達哉、以下 Progm at 社）と株式会社 Datachain（代表取締役：久田哲史、以下 Datachain 社）は、Progm at 社が開発を主導するステーブルコイン（以下、SC）発行管理基盤「Progm at Coin（プログラマコイン）」を用いて発行される SC の提供及び AUM（運用資産残高）の最大化に向け協業いたします。具体的には、従来からのマルチチェーン/クロスチェーン展開に加えて、ステーブルコインのコントラクト開発およびグローバルマーケットでの事業開発を、Progm at 社と Datachain 社が協働して推進します。

SC 標準機能に係るスマートコントラクト *1 開発はすでに完了し、テストネット *2 環境における複数ブロックチェーン間の SC 移転にも成功しています。今後、両社は、国際的なユースケースの創出を含め、「Progm at Coin」を用いて発行される SC のグローバルスタンダード化に向け連携を強化してまいります。



1. 背景

2024年5月現在、全世界のステーブルコイン市場規模は、1,600億ドル（約25兆円）を超える規模となっています。ブロックチェーン上のサービスにおける利用だけでなく、リテール決済や法人間決済における利便性向上といった様々なユースケースも検討が進行しています。

現時点では、米国 Circle 社が発行する USDC や、香港 Tether 社が発行する USDT がその多くを占めています。Tether 社の 2024 年第 1 四半期の純利益は 45 億ドル（約 7,000 億円）に及んでおり、非常に注目されている領域です。

一方、既存の SC において、規制対応や価格の不安定さなどの課題が多く、規制に準拠し、国際的に信頼の高い金融機関が発行する、安心・安全な SC が求められています。日本国内では、2023 年 6 月に施行された改正資金決済法の中で SC が定義され、同法案に準拠した SC の発行に向けた準備が進められています。

Progmatic 社は信託銀行等の SC 発行体と連携し、SC の発行管理基盤「Progmatic Coin」の開発を主導しており、SC を取り扱う仲介者が必要なライセンス登録を完了し次第、同基盤を用いた SC の発行・流通が可能になる予定です。各 SC は、JPY、USD、EUR 等の主要法定通貨での発行が可能で、グローバル市場を見据えた展開を想定しています。

2. 本取り組みについて

本取り組みの目的は、Progmatic 社と Datachain 社による、「Progmatic Coin」を用いて発行される SC の AUM 最大化です。具体的には、ステーブルコイン事業において流動性の鍵となる以下の 2 点を、Progmatic 社と Datachain 社が協働して推進します。

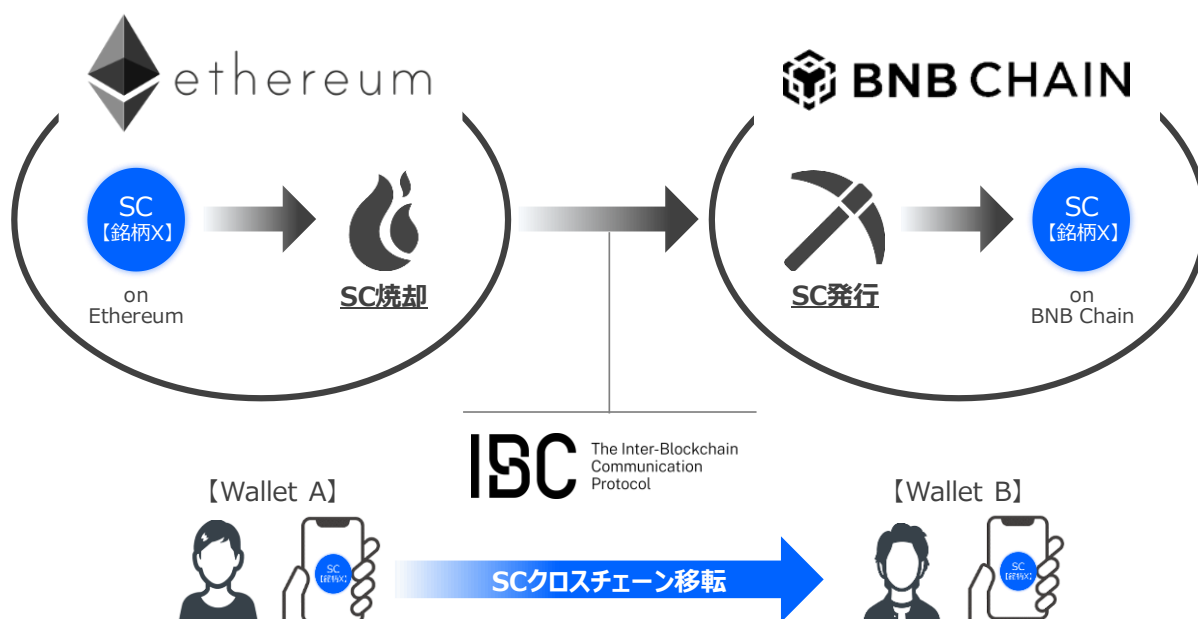
協業領域	詳細
スマートコントラクト開発 (マルチチェーン展開/クロスチェーン機能)	「Progmatic Coin」基盤で発行される SC について、複数のブロックチェーン上での登録・発行・移転、複数のブロックチェーン間のブリッジ機能を提供するためのスマートコントラクト開発。
グローバルマーケット における事業開発	「Progmatic Coin」基盤で発行される SC を用いたクロスボーダー決済など、国際的なユースケースを創出するための事業開発。

このうち、スマートコントラクト開発については、SC の登録・発行・移転といった標準機能の開発がすでに完了しており、複数のパブリックチェーン（Ethereum と BNB Chain）のテストネット環境において、異なるブロックチェーン間で SC の移転取引が正常に実行されることが確認できています。

同移転取引では、Burn-Mint 方式を採用しています。これは、一方のブロックチェーン上で SC を Burn（焼却）し、もう一方のブロックチェーン上で同量の SC を Mint（発行）する方式であり、従来の主要な方式に対して、資本効率・ユーザー利便性に優れています。現時点では、米国 Circle 社の USDC 以外の SC は同方式を実現できておらず、「Progmatic Coin」基盤の Day1（システムリリース時点）から Burn-Mint のクロスチェーン移転を実現できる唯一の SC となる見込みです（2024 年 5 月時点 / 当社調べ）。

「Progmatic Coin」基盤を利用して発行する各 SC では、上記方式を、Datachain 社が開発貢献する IBC *3 というブロックチェーン間の通信プロトコルを用いて実装しています。これにより、より安全で汎用性のある形式で資本効率に優れたブロックチェーン間の SC 移転機能の提供が可能になります。

IBC を用いて対応するブロックチェーンは、各チェーンの取引コストや取引速度、関連するエコシステムの大きさ等を勘案し、SC 利用者のニーズに即して順次対応範囲を拡大していきます。



3. 今後の予定

Progmatic 社と Datachain 社では、信託銀行等の SC 発行体と連携し、2024 年内の「Progmatic Coin」基盤を用いた SC の発行と、その後の AUM 最大化に向けて、追加機能の開発および国内外の様々な金融機関や SC 利用企業との協議を進めてまいります。

個別の取り組みについては、準備が整い次第、発表させていただく予定です。

- *1) スマートコントラクト: ブロックチェーン上で任意の取引を実行するために必要なプログラム
- *2) テストネット: 各ブロックチェーンネットワークが用意している、テスト環境
- *3) IBC: ブロックチェーン同士の相互運用性を担保するための仕様標準。Inter-Blockchain Communication の略称。

以上

<別紙>

1. 各社の役割・概要

(1) プラットフォーム「Progmatic Coin」提供者

商 号 : Progmatic, Inc.

代 表 者 : 代表取締役 Founder and CEO 齊藤 達哉

U R L : <https://progmatic.co.jp/>

(2) 「Progmatic Coin」のスマートコントラクト開発及び事業開発による AUM 最大化

商 号 : 株式会社 Datachain

代 表 者 : 代表取締役 CEO 久田 哲史

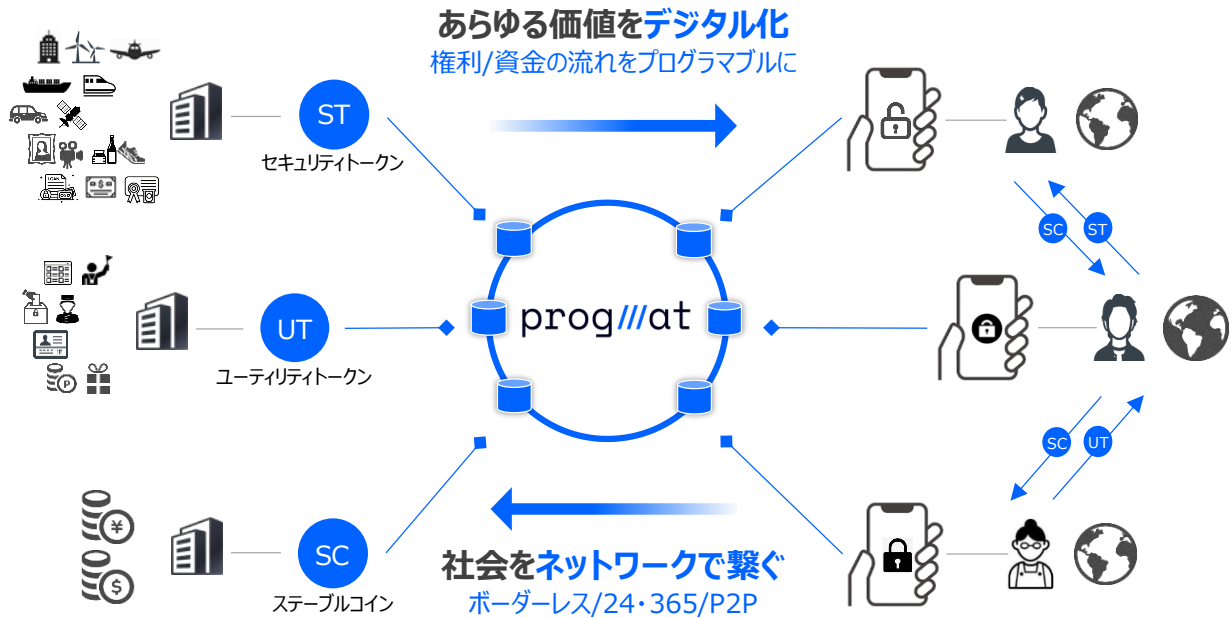
U R L : <https://ja.datachain.jp/>

◆ 「Progrmat (プログラマ)」について

Web サイトおよび解説記事を公開しておりますので、以下 URL からご覧ください。

Web サイト : <<https://progrmat.co.jp/>>

解説記事 : <https://note.com/tatsu_s123/n/n03a291fa52ab>



◆ 「Progrmat Coin (プログラマコイン)」基盤について

「Progrmat Coin」基盤は様々な SC を発行・管理するためのインフラです。

資料を公開しておりますので、以下 URL からご覧ください。

資料 : <<https://speakerdeck.com/progrmat/sc>>

解説記事 : <https://note.com/tatsu_s123/n/n406e5cfa9f1c>

